2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/30

団体名	一般社団法人コンパスナビ	活動タイトル	生まれた家では築けなかった生活体験醸成の応援「生きる力を育む講座」の開催事業

望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）

●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	実現したいビジョンは、「さまざまな事情により実の家庭で養育されず、社会的養護の元で育った若者が複数の課題を抱えてつまずいている状況から、適切な支援をうけつつリスタートできる社会」である。具体的には、措置までの不適切な養育下で、同年齢の子どもが経験する生活体験の欠乏があり、措置されても十分なソーシャルスキルを積むことが難しいという、虐待等の体験が長く子ども・若者が苦しめている実情に大人が関心を寄せ、日本の将来を担う若者を孤立させない温かい社会づくりを目指す。
●団体の社会的役割(ミッション)	団体のミッションは、「措置解除と同時に支援が途絶えたり、特定の機関以外にもネットワークのどこかにゆるく細くつながりつづけられるためのハブとなる」ことである。措置解除後の困難を予防するために以下のような取組みを推進する。 １）施設等と連携して生活体験醸成の講座等を行い、措置下児童に相談先としての当団体のことを知ってもらう。 ２）職場体験・見学を通し、進路選択に役立つ興味関心適性を知る機会をつくる。 ３）一人暮らし体験講座参加で、必要な生活スキルを実感してもらう。
●団体の活動基盤	●人的資源：心理・福祉の有資格者：一貫した支援体制の根拠となる知見を団体内に共有・増進させる人材、講座やイベントのボランティア人材 ●物的資源：事務所、居場所となる場、IT環境、通信環境、緊急避難の住戸、相談者に支援できる食糧・衣料品 ●活動資金：行政の委託事業の補助金、各種民間助成金、団体の裁量・工夫の余地の大きい自主財源（会費・寄付・自主事業）の比率を全体の80%にまで高める。 ●情報：他機関、他団体との連携にて支援を補い合える情報、奨学金情報、就労協力企業情報、生活力向上のための講座に役立つ情報

■活動風景

活動の様子１

梨農家様のご協力で施設入所中の子どもたちは栗拾いを楽しみました。軍手をしてちょっとチクっとしたと騒ぎながらも競争で集めていました。焼き栗・炊き込みご飯、野外で食べる味は格別でした。

活動の様子2

子どもたちを壇上に上げ参加型のイベント。芸人さんたちのまき込む力は素晴らしく、終始大きな歓声、どよめきの絶えないコミュニケーションスキルの達人たちに触れる毎年人気の企画で

■活動報告

社会的養育のなかでも施設養育では職員さんが日々の養育で手一杯であることから、私たちアフターケア事業者が生活体験の補完できる部分として、子どもたちに日常と少し趣を異にしたイベントに触れさせることを目途にしました。

農業に触れる体験（栗拾い、野外で調理）、金銭管理教育（退所後の金銭トラブルの予防）、職場見学（工場や、飲食店）、巣立ち間近の子ども向け一人暮らし体験（当団体保有のアパートにて買い物と調理、掃除、洗濯）、ネットリテラシーの勉強（SNSの適切な利活用、詐欺回避）、そして、年間人気の高い、よしもとお笑い交流イベント（自己表現の力、コミュニケーションスキルアップ）を開催することができました。性教育も月一回の開催という自然な形で巣立ちの近い子ども、里親さんなどに触れさせる工夫のための講師派遣が可能になり、本助成金にてお力をいただきました。

■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)

・ピッコラーレ出張保健室　10回、研修　1回
・クリ収穫体験　1回、
・ネットリテラシー講習　2回
・吉本芸人による研修交流イベント、企業体験就労２回
・食育一人ぐらし経験イベント11回

以上を実施することができました。

■事業を通じて得られたノウハウ

回数を重ねる中職員自身もスキルアップができ、子どもたちに接する力を蓄えることができました。結果的に施設職員のサポートにもつながっていき、退所後のつまずきの際にも、関係性を結んだアフターケア事業である、コンパスナビへの相談のハードルが下がったといえます。もちろんつまずかずに順調に学業や、就労が継続できればいうことはないのですが、生まれ育った家庭から得られなかったものは長く、彼らの人生に影響を与えます。借金や望まぬ妊娠や、人間関係の摩擦など複数の課題を背負って困窮する前に、適切にSOSを出せる受援力を身に着ける関係性構築が、数々の講座やイベントにてできたと実感しています。

■望ましい社会状況を達成するための課題

「実現したいビジョンは、『さまざまな事情により実の家庭で養育されず、社会的養護の元で育った若者が複数の課題を抱えてつまずいている状況から、適切な支援をうけつつリスタートできる社会』です。具体的には、措置までの不適切な養育下で、同年齢の子どもが経験する生活体験の欠乏があり、措置されても十分なソーシャルスキルを積むことが難しいという、虐待等の体験が長く子ども・若者が苦しめている実情に大人が関心を寄せ、日本の将来を担う若者を孤立させない温かい社会づくりをめざす。」と掲げています。

埼玉県だけでも22施設の児童養護施設があり、いちアフターケア事業者としてできることは限られますが、心ある大人たちの行動変容を呼びかけていくことを発信し続けていくことが課題です。

■活動成果のアピールポイント（自由記入）

この1年間の活動を通じて	**子どもたちの心に残る生活体験醸成に寄与できたこと。巣立ち後のつまずきの際に相談先として思い起こしてもらえる関係性構築の一助となったこと。アフターケ事業団体としての力もつけることができたこと**	**を達成しました。**

巣立ち後、早々に退学や離職した若者からの相談を受けるケースが２件でした。重篤な状況ではなかったために早期再就職につなげることができました。